

# ～ 発信します。利根川ダム群の水情報！ ～

令和5年9月6日

## 矢木沢ダム



(独)水資源機構

## 奈良俣ダム



(独)水資源機構

## 藁原ダム



国土交通省

## 相俣ダム



国土交通省

## 藤原ダム



国土交通省

## 草木ダム



(独)水資源機構

## ハッ場ダム



国土交通省

## 下久保ダム



(独)水資源機構

## 渡良瀬貯水池

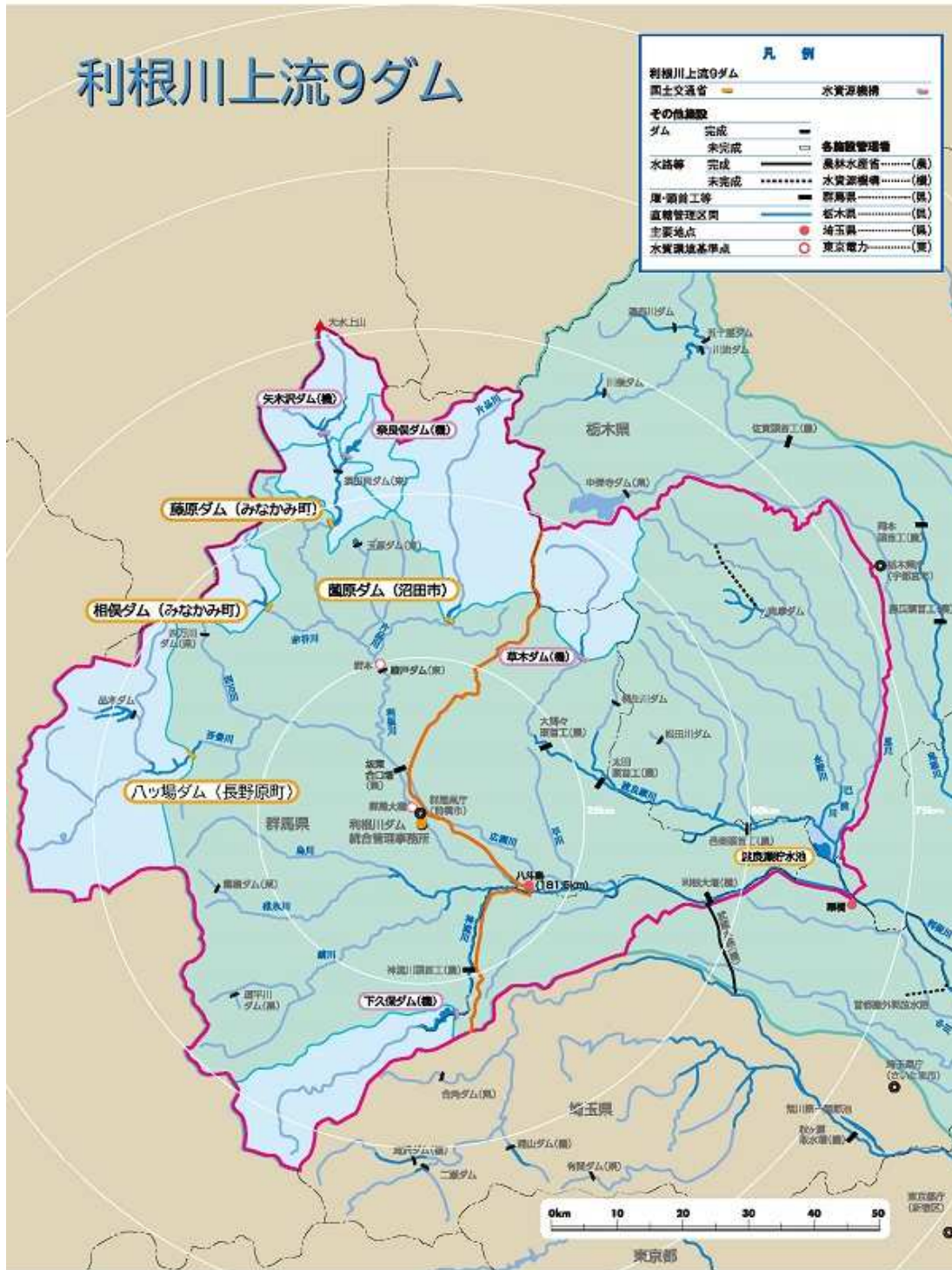


国土交通省

利根川ダム統合管理事務所では、限りある水資源を有効活用し安定した水利用を可能にするため、9つのダムを一体として運用する「統合管理」を行っております。

# 利根川上流ダム群位置図

## ◇位置図



## ◇各情報リンク

■各ダム位置図・基本情報・・・位置図・各ダムの説明

[https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/tonedamu\\_index001.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/tonedamu_index001.html)

■各ダムリアルタイムデータ・・・過去12時間分の貯水率・放流量等を表示

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/teikyo/realtime2/E007020.html>

■国直轄4ダム(藤原ダム・相俣ダム・蕨原ダム・ハッ場ダム) LIVE映像

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/teikyo/realtime2/E014010.html>

# 利根川上流ダム群9ダムの現状

## ◇現在のダム運用

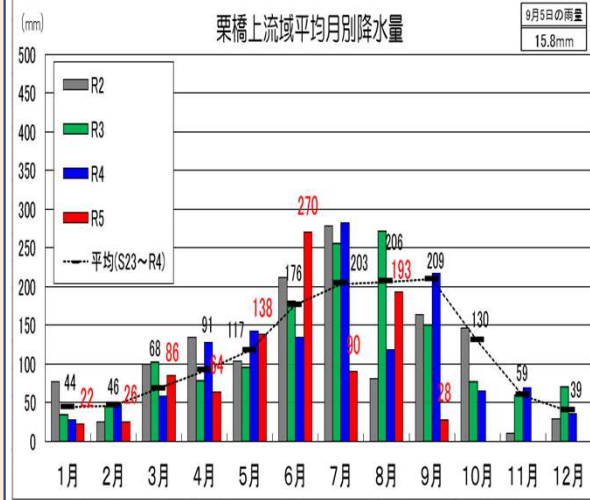
- 今年は、9ダム貯水量が貯水率100%の状態です。しかし、7月期の降水量は平均降水量の44%程度と少なく、H4年以降(※)で最も少ない降水量でした。
- これにより、7月中旬から9ダムの貯水量は急激に低下しました。7月31日には、ダムから一日で約980万m<sup>3</sup>を補給しました。これは、この時期の9ダムの満水量(3億6849万m<sup>3</sup>)が約1ヶ月で空になってしまう量に相当します。
- 8月中旬には、台風など降雨の影響で、9ダム貯水量はやや回復しました。しかし、引き続き奥利根流域の降水量が少なく、更に8月下旬には流域全体で再び少雨の日が続いたため貯水量は低下しました。

※H4年以降(過去32ヶ年)とは：ハツ場ダムを除いた8ダム体制になって以降

## ◇今後のダムの貯水状況について

- 気象庁の1か月予報によると、降水量は平年並み以上となる確率が70%です。平年並みの降雨があれば、貯水量は横ばい以上とはなる見込みですが、今後の9ダム貯水量が上昇するためには、特に奥利根流域に雨が降り、矢木沢ダム、奈良俣ダムの貯水率が上昇することが重要です。

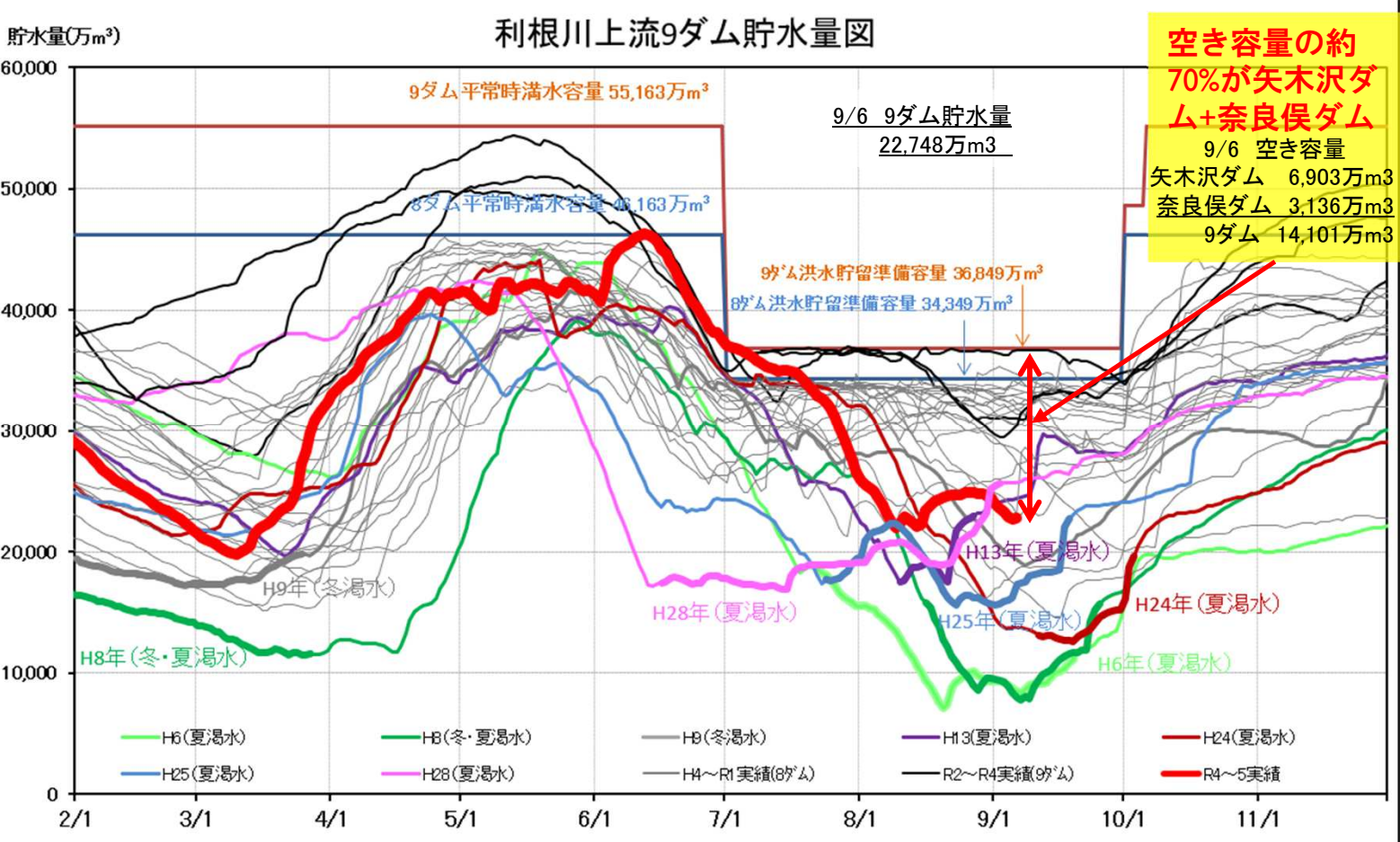
## ◇栗橋上流域平均月別降水量



## 気象庁1か月予報 (8月31日発表)

### 降水量の各階級の確率(%)

9/2~10/1の1ヶ月に、平年並み以上の降雨となる予報は70%



※湯水年の太線部分：制限を行った期間

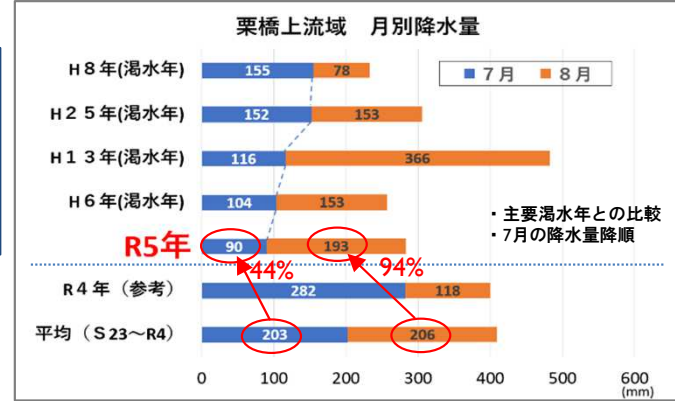
# 渇水に関する情報（7～8月）

## ◇利根川の渇水状況について

■ 利根川水系では、令和3年に策定した【利根川水系渇水対応タイムライン】に則り、8月2日に貯水率70%を下回ったことから、8月7日に臨時の利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会を開催し、【フェーズⅡ 渇水注意期】に入りました。

## ◇過去の降水量との比較

■ 7月の1ヶ月間の栗橋上流域の累加降水量は、**平成4年以降で最も少ない量**で、平均値の44%でした。8月上旬以降は降水量が増え、平均値の94%で、ほぼ平年並でした。



※H4年以降(過去32ヶ年)とは：ハッ場ダムを除いた8ダム体制になって以降。

※平均値：S23～R4年の平均値

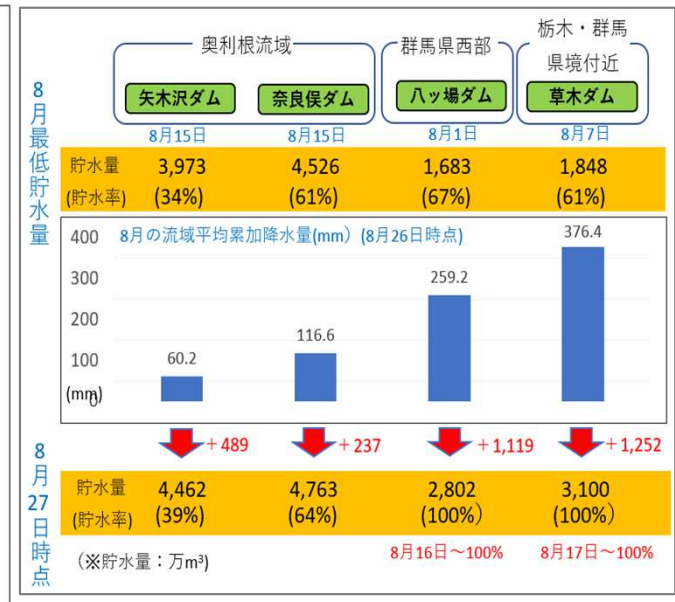
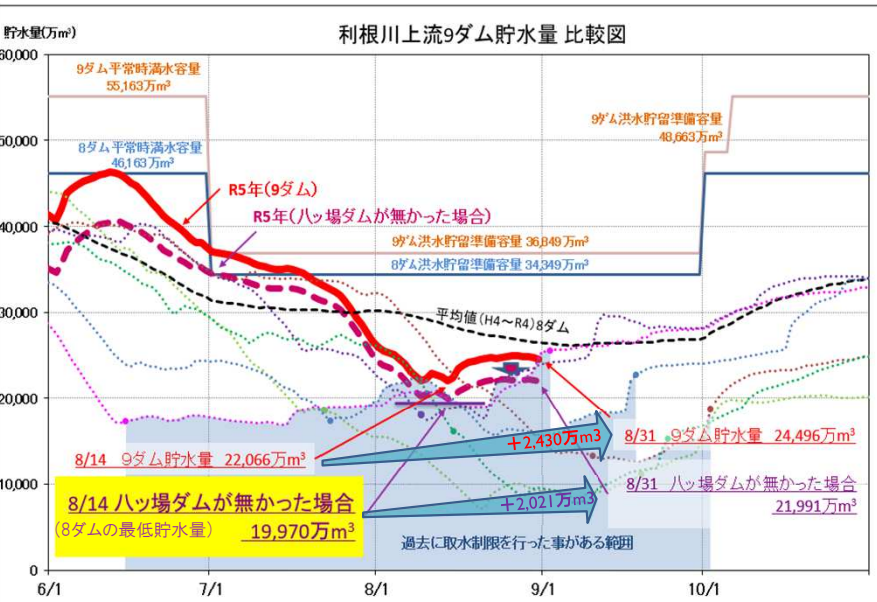
## ◇過去の貯水量との比較

■ 7月累加降水量は最下位だった一方で、全ダム合計貯水量は8月1日時点で平均値の86%で、取水制限には至っていません(P.3\_利根川上流9ダム貯水量図 参照)。この結果には、様々な影響が考えられますが、**ハッ場ダムの効果も大きい**と考えられます。

## ◇ハッ場ダムの効果について

■ ハッ場ダム(R2年より運用開始)が出来たことで、7～9月の利水容量は2,500万m<sup>3</sup>増加しました。今年7月1日にハッ場ダムの貯水率は100%でしたが、その後補給を続け7月下旬に約1,600万m<sup>3</sup>(64%)まで減りました。ハッ場ダムが無ければ、9ダム貯水量は19,970万m<sup>3</sup>まで低下し、取水制限が目前に迫っていました。

■ ハッ場ダムにより群馬県西部に降った雨を貯留できるようになりました。今年の8月降雨は偏りがあり、栃木・群馬県境付近(草木ダム付近)や群馬県西部(ハッ場ダム付近)の降水量が多い傾向にありました。ハッ場ダムが吾妻川流域の降雨を貯留できた事は、現在の貯水量維持に貢献しています。



※ .....: H4年以降の主要渇水年 ●.....: 取水制限期間

※弾力的管理により100%以上の貯水をする事もあり、その場合も100%とします。

# 令和5年夏渇水に挑む!

～利根川ダム統合管理事務所のチャレンジ～

## よりきめ細やかなダム運用

### ～放流指示を3回/日でダム放流量決定! (平時は1～2回/日)～

現在の河川流況や利水者の必要流量等を確認し、今後の「流況予測」を行いダム放流量を決める「流況会議」を1日3回実施し各ダムの放流を指示します。

- ・流況予測とは、天候等により河川流況が今後どのように増減するかを予測すること。
- ・流況会議とは、飲み水等の上水、農業用水等が不足しないよう、必要な河川流量を地点ごとに定め、ダムから到達する時間等を考慮し、9つのダムから放流する放流量を決定する会議のこと。



#### 下流施設との連携

- ・ダムからの放流量を抑えるため、北千葉導水路等の下流施設との連携を実施

## ダムの流況を積極的にPR ～ホームページ、ポスター、パンフレット等で情報発信!～

平常時から実施しているPRに加え、ホームページに9ダムの流況等を纏めた「発信します。利根川ダム群の水情報!」の掲載や「節水にご協力を」ポスター、パンフレット等の配布、掲示を行い、上流ダム群の情報を発信し、一般の皆さんに広く周知を実施しました。

## 節水にご協力をお願い致します



## 利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(臨時)の開催 ～関係機関と共通認識を図る!～

関東地方整備局の取組

利根川上流ダム群等の現状把握と今後の対応について協議を行いました。今後、更に状況が厳しくなった場合は取水制限について話し合いを実施、互助の精神によりみんなで乗り切ろうと、関係機関と共通認識を図りました。

## その他の取組内容

### ～湖面利用する地元自治体との情報共有!～

貯水位の低下により、水面利用者への影響も想定されることから、関係自治体と今後の貯水位や放流の状況など密に状況共有を実施しました。

### ～利水容量以外(発電専用容量、堆砂容量)の活用方法検討!～

ダム貯水位が最低水位以下に低下した場合を想定した運用方法の検討を実施しました。